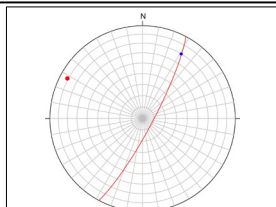


H27-B-2 深度128.82~128.97m D-44破砕帯

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度128.87m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。

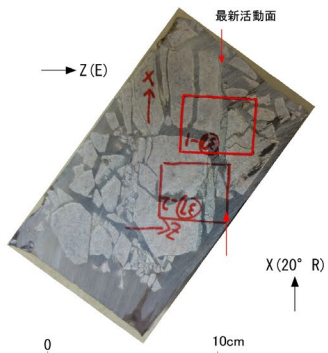
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



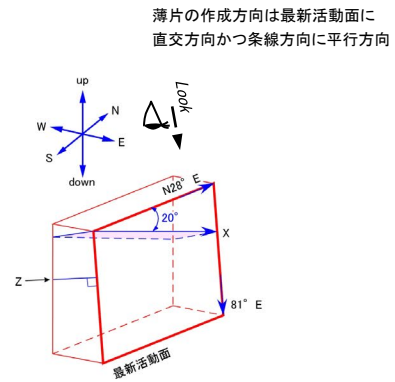
シュミットネット(下半球投影)
● 総データ数: 1
● 最新活動面: 1

・ 走向・傾斜: N28° E81° E
・ レイク角: 20° 北傾斜

最新活動面の条線観察結果



ブロックサンプル



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

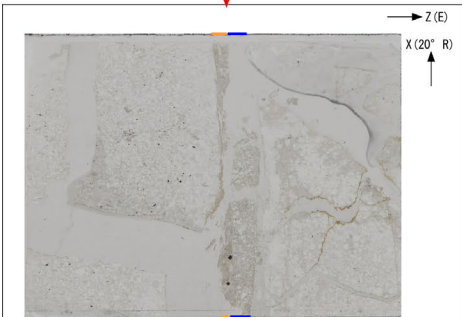
走向・傾斜 N28° E81° E

X: 条線方向(下向きを正とする)

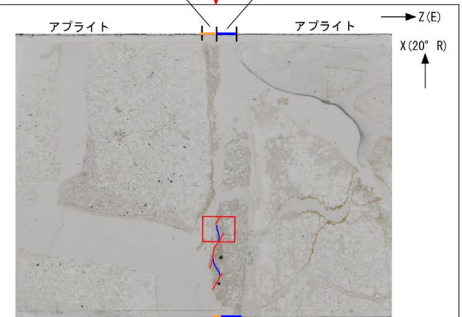
Z: 断層面の法線方向(上壁側を正とする)

↑ ↓
最新活動面

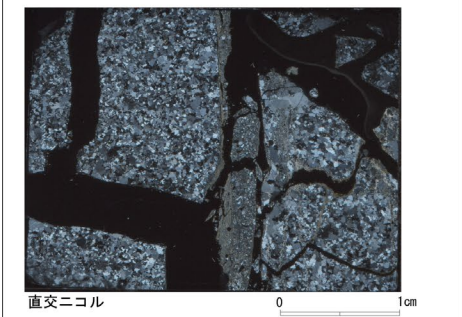
↑ ↓
最新活動面



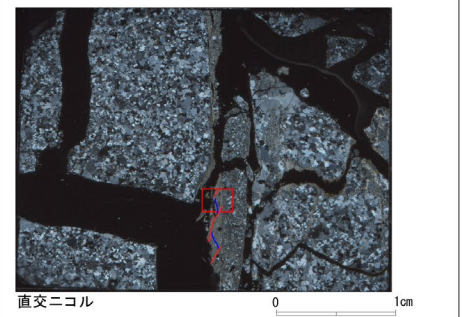
単ニコル



単ニコル

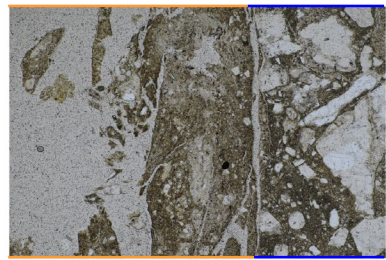


直交ニコル



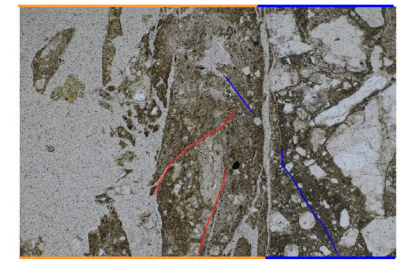
直交ニコル

赤枠内の拡大

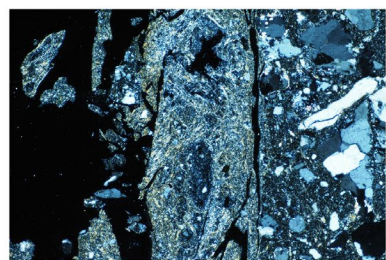


単ニコル

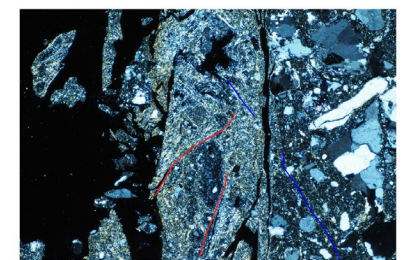
赤枠内の拡大



単ニコル



直交ニコル



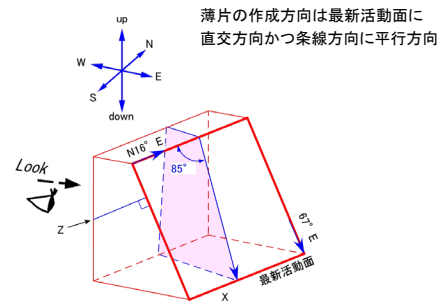
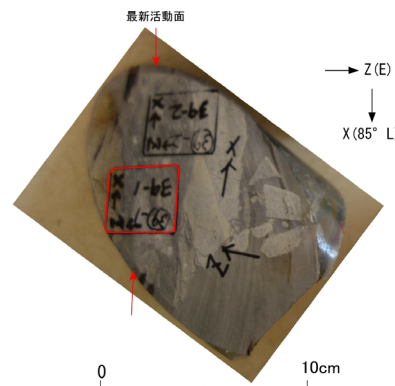
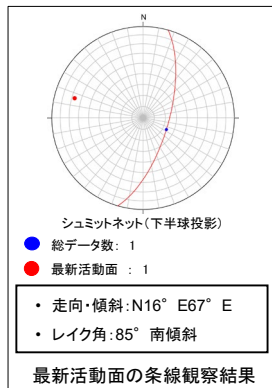
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

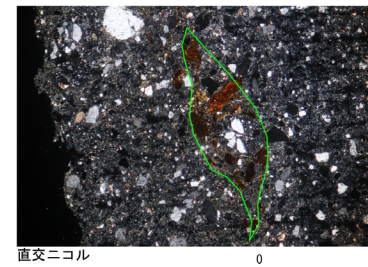
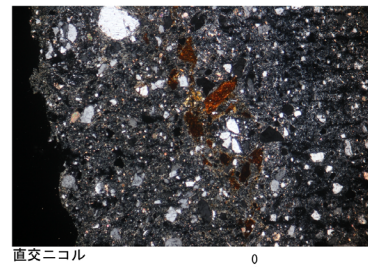
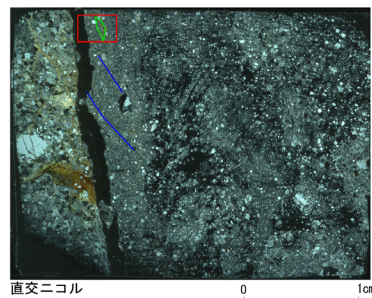
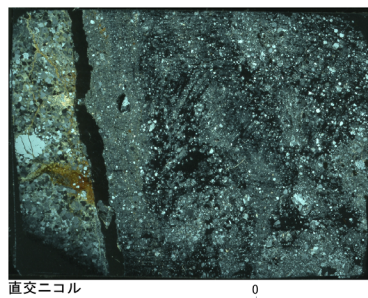
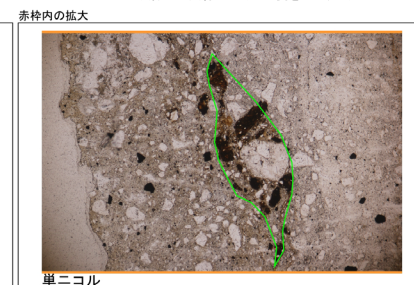
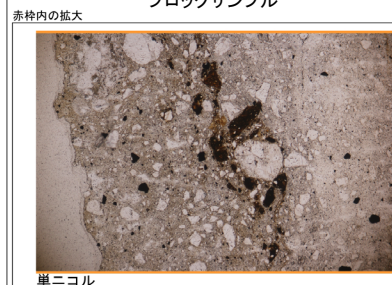
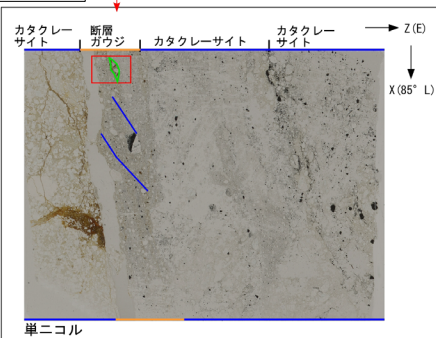
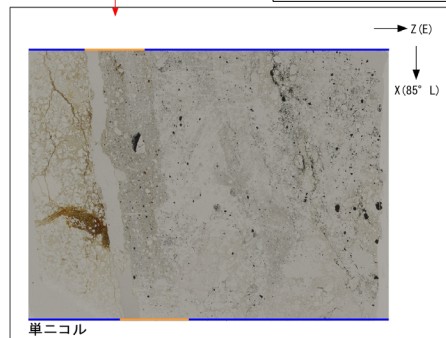
H27-B-2 深度134.15~134.23m f-b-2-20破砕帯

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度134.15m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



走向・傾斜 N16° E67° E
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

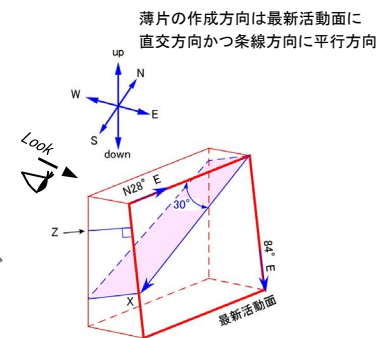
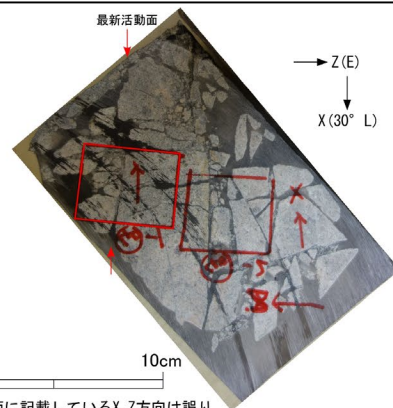
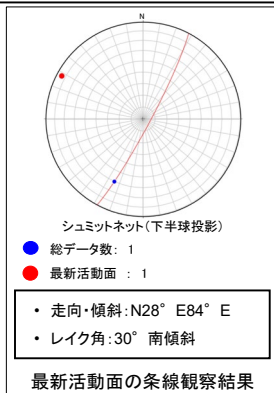


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面
 - 非対称変形構造

H27-B-2 深度152.10~152.15m f-b-2-21破砕帯

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度152.11m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



走向・傾斜 N28° E84° E

X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

最新活動面

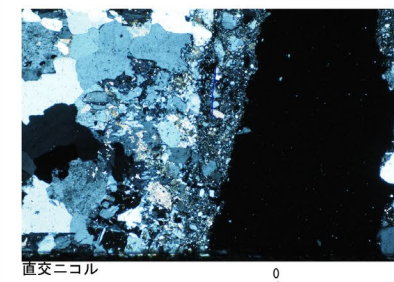
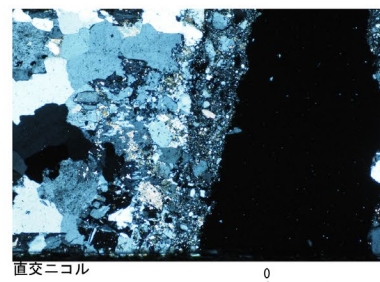
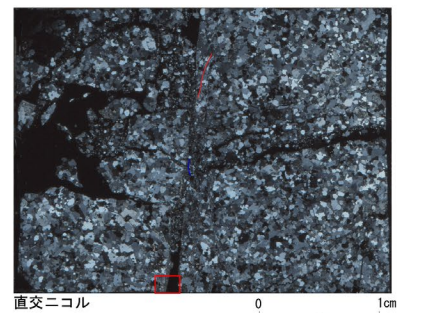
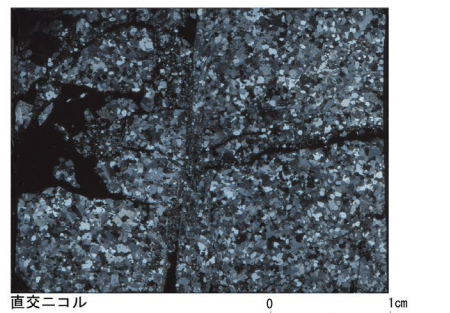
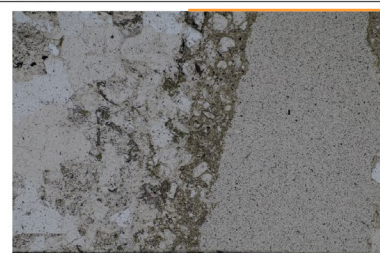
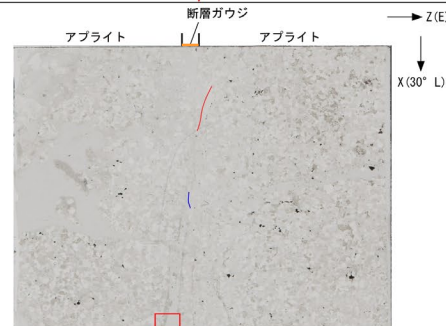
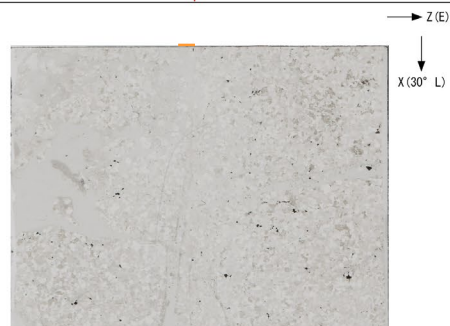
最新活動面

※切断面に記載しているX, Z方向は誤り

ブロックサンプル

赤枠内の拡大

赤枠内の拡大



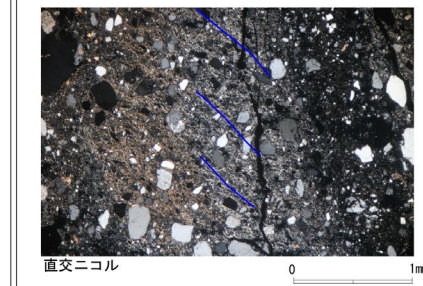
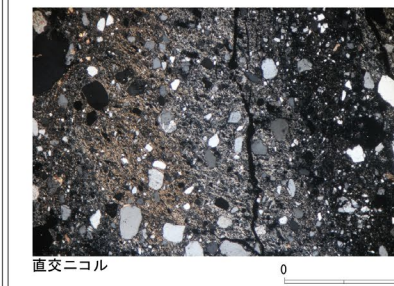
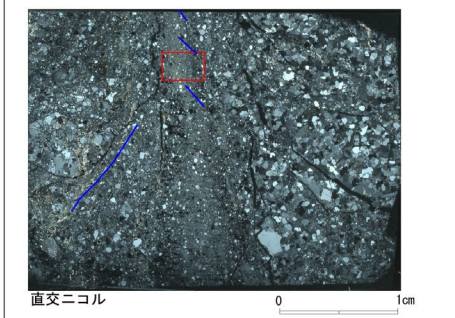
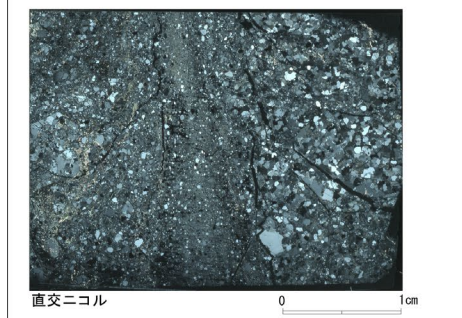
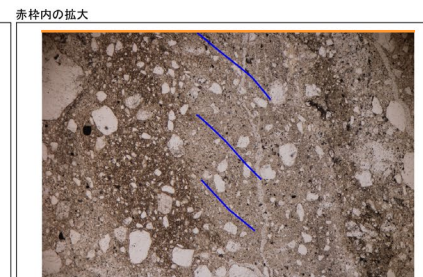
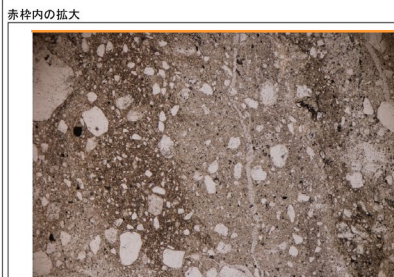
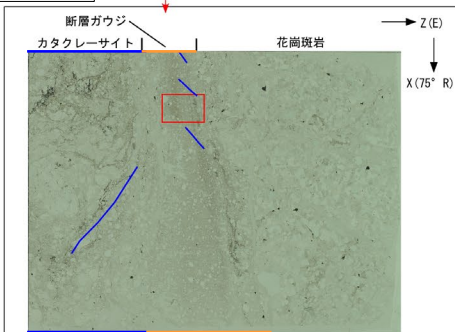
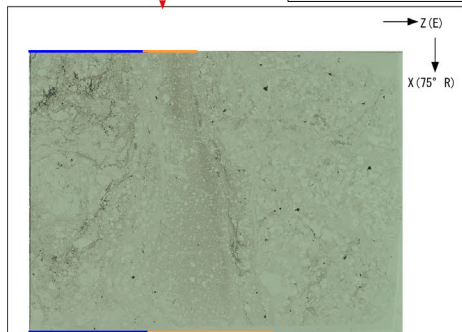
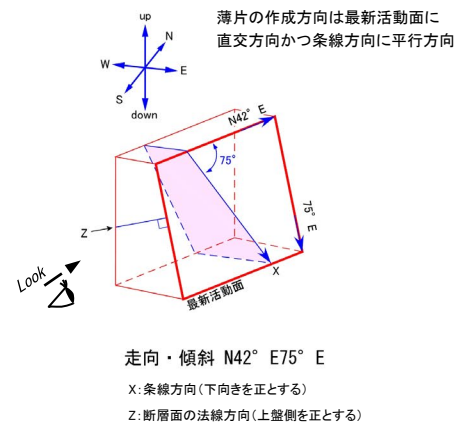
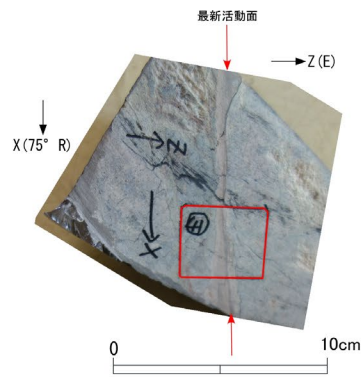
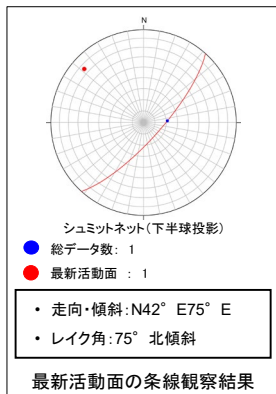
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-2 深度154.53~154.71m f-b-2-22破砕帯

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度154.58m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

余白

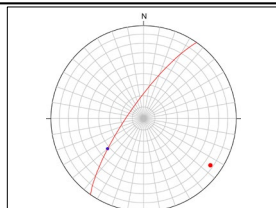
H24-B14-2

余白

H24-B14-2 深度28.50~28.66m f-b14-2-1破砕帯

・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度28.50m)の変位センスは、左ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



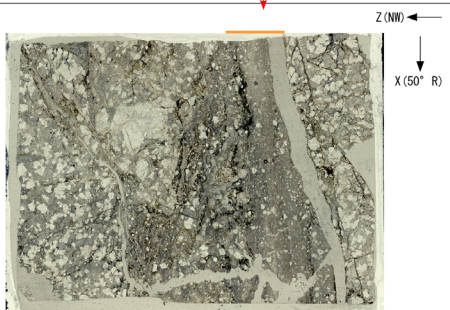
シュミットネット(下半球投影)
 ● 総データ数: 1
 ● 最新活動面: 1

・ 走向・傾斜: N35° E77° NW
 ・ レイク角: 50° 南傾斜

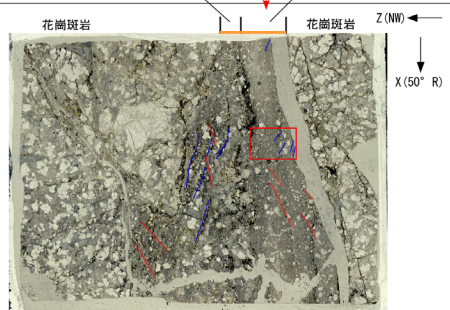
最新活動面

最新活動面の条線観察結果

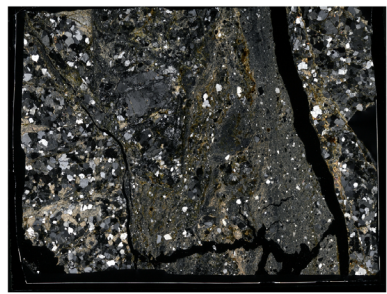
断層ガウジ 断層ガウジ



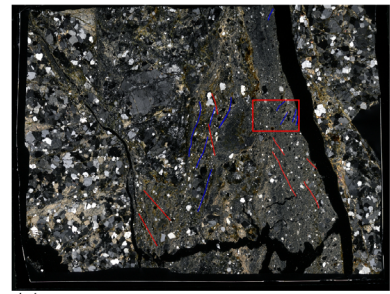
単ニコル



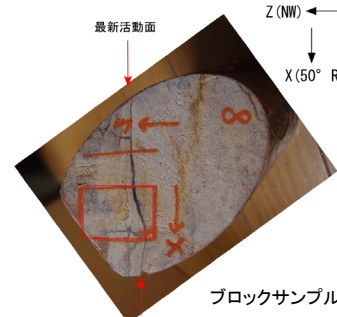
単ニコル



直交ニコル



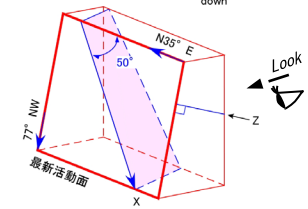
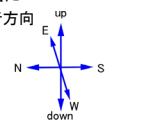
直交ニコル



ブロックサンプル

0 10cm

薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N35° E77° NW

X: 条線方向(下向きを正とする)

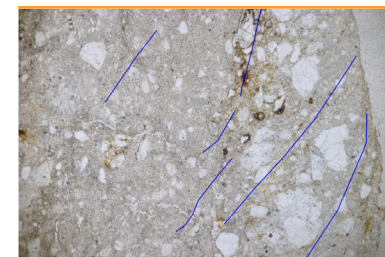
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

赤枠内の拡大

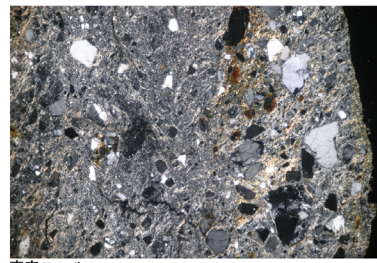


単ニコル

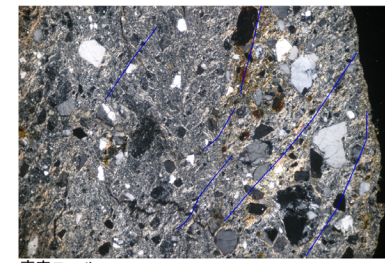
赤枠内の拡大



単ニコル



直交ニコル



直交ニコル

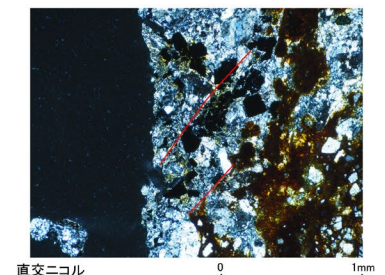
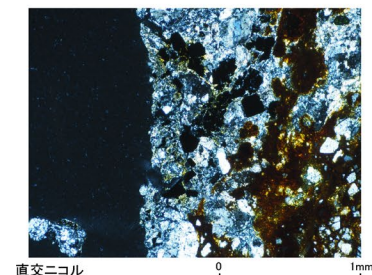
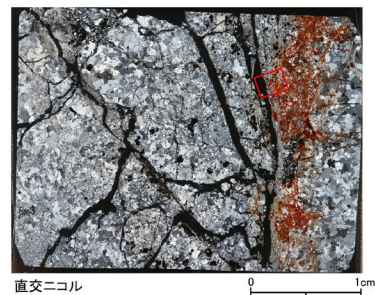
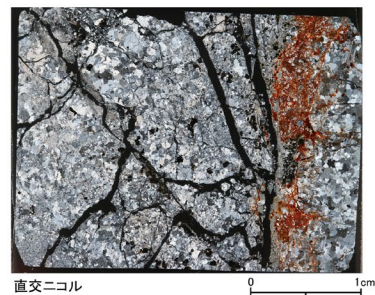
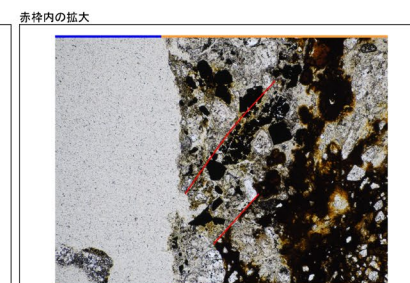
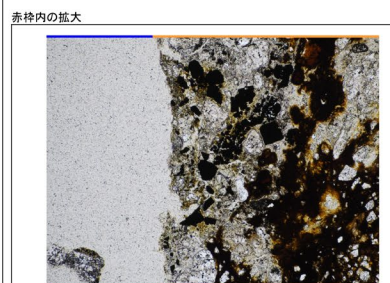
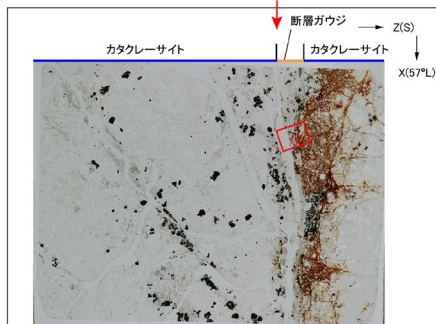
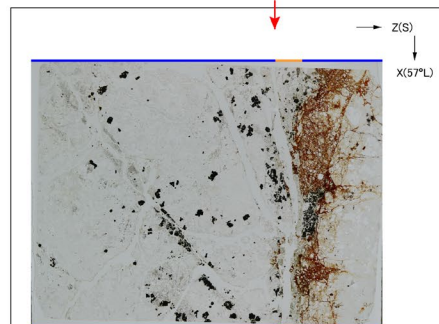
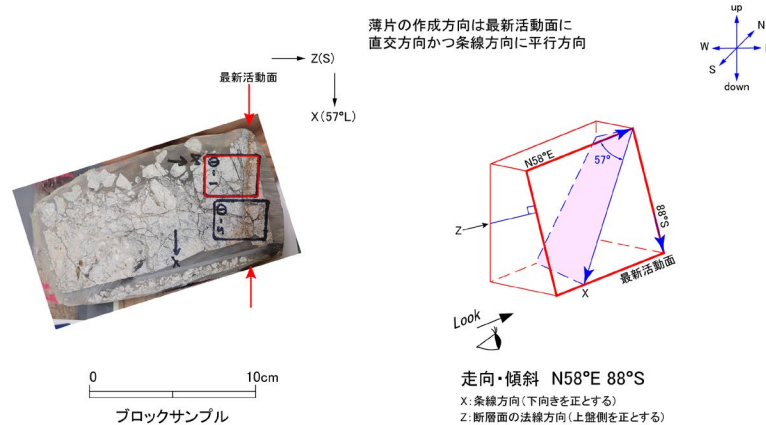
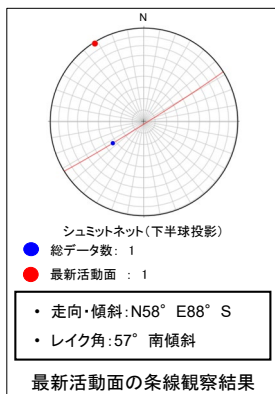
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-B14-2 深度38.10~38.27m f-b14-2-2破砕帯

・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度38.10m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

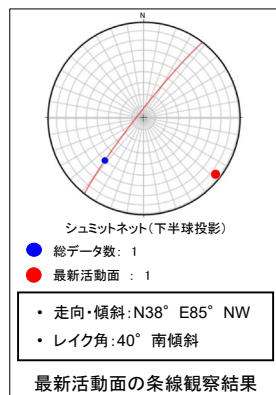


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-B14-2 深度47.37~47.40m 非モデル化破砕部(1/3)

・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度47.40m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施したところ、以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

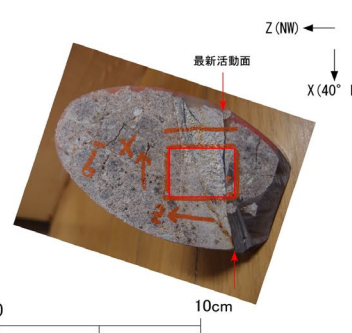
- ▶ 最新活動面に沿った粘土状部は連続しない。
- ▶ 多様な粒径の岩片が多く認められる。角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。
- ▶ 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



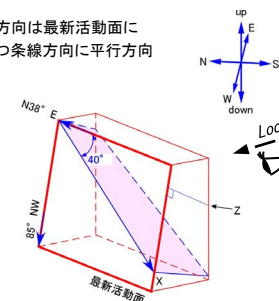
最新活動面

最新活動面

最新活動面の条線観察結果



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



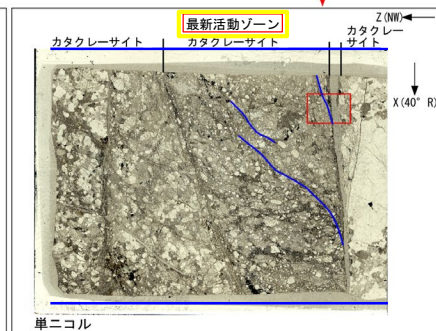
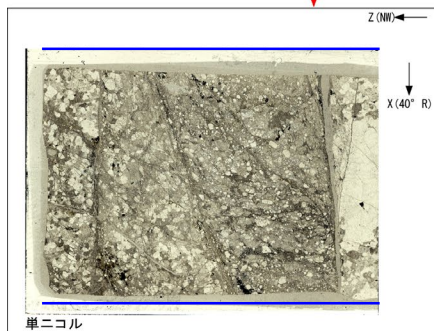
走向・傾斜 N38° E85° NW

X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

※断面に記載のX方向は誤り

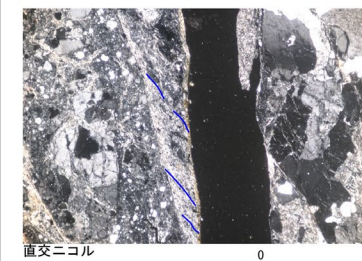
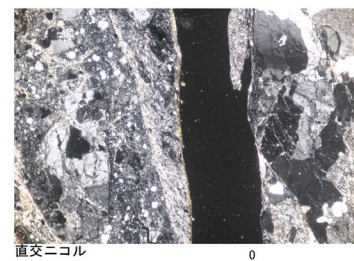
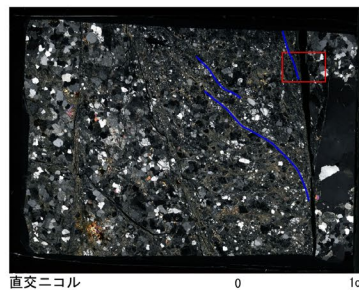
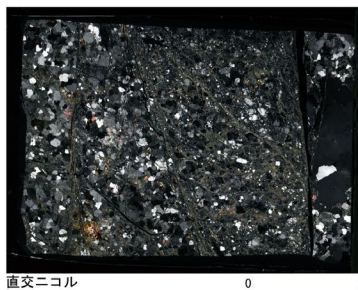
ブロックサンプル



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

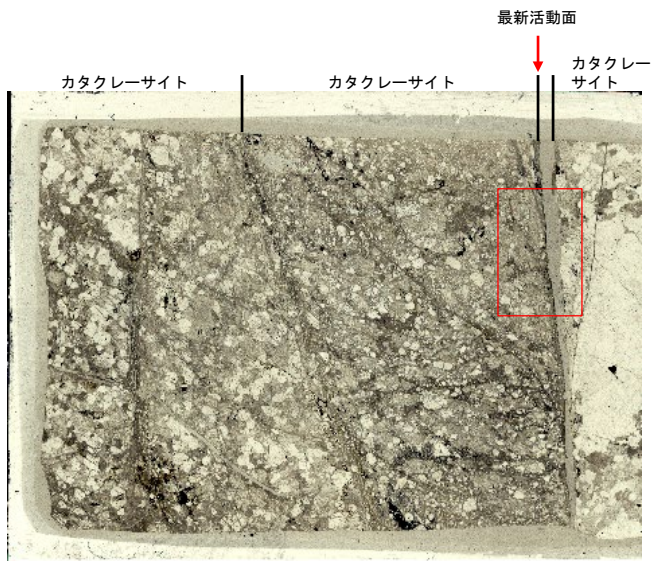


凡例

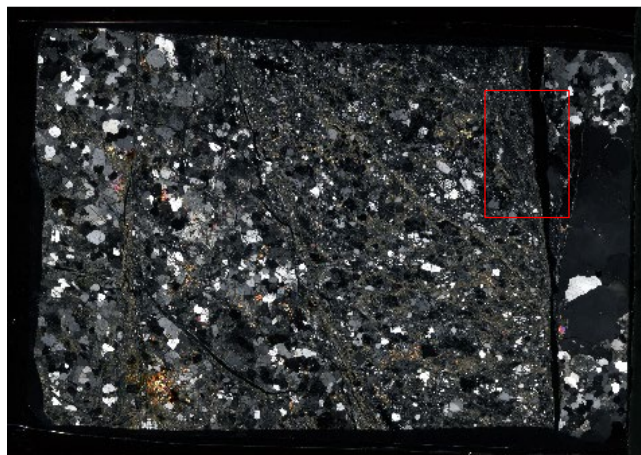
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-B14-2 深度47.37~47.40m 非モデル化破碎部 (2/3)

・最新活動に伴うゾーンについては、以下の特徴が認められる。
 ➤ 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
 (図1)

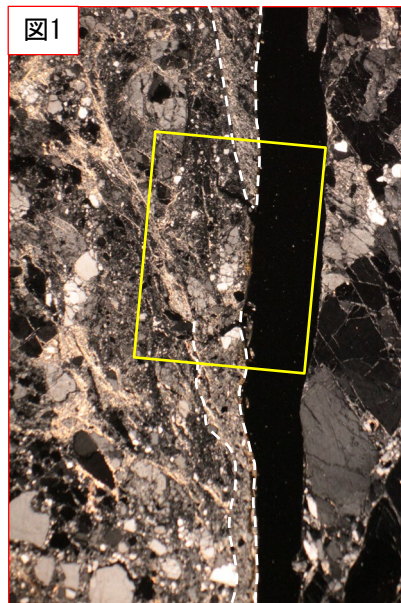
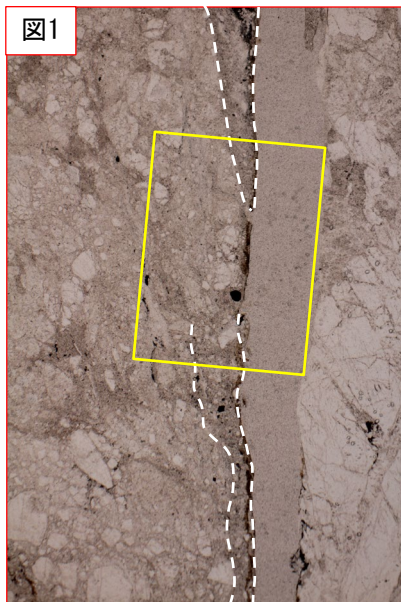


単ニコル



直交ニコル

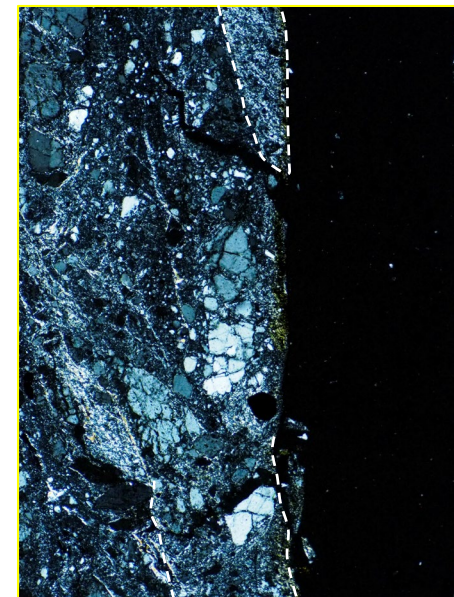
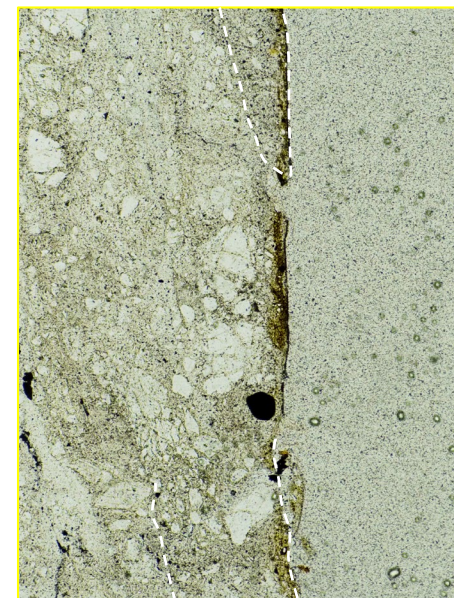
0 1cm



破線は粘土状部の範囲を示す。 1mm



拡大

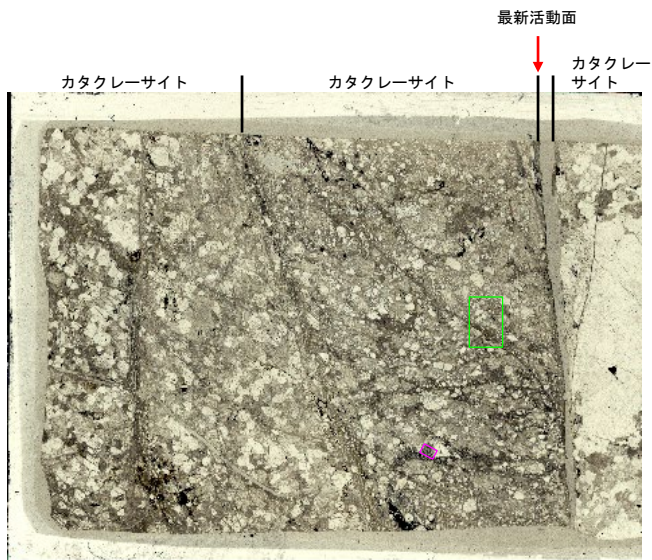


500 μm

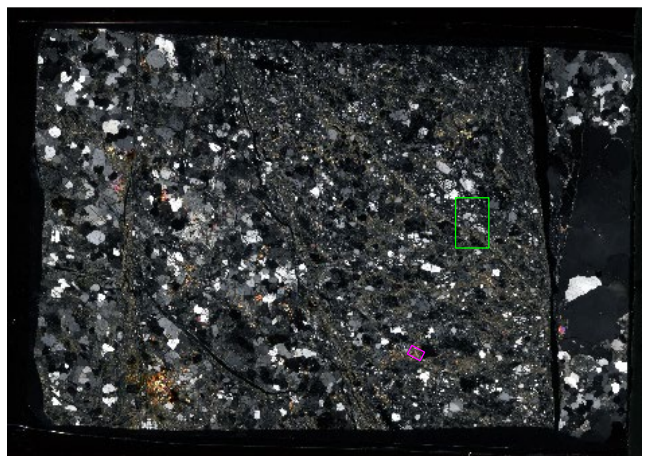
H24-B14-2 深度47.37~47.40m 非モデル化破碎部 (3/3)

・最新活動に伴うゾーンについては、以下の特徴が認められる。

- 多様な粒径の岩片が多く認められる。角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)

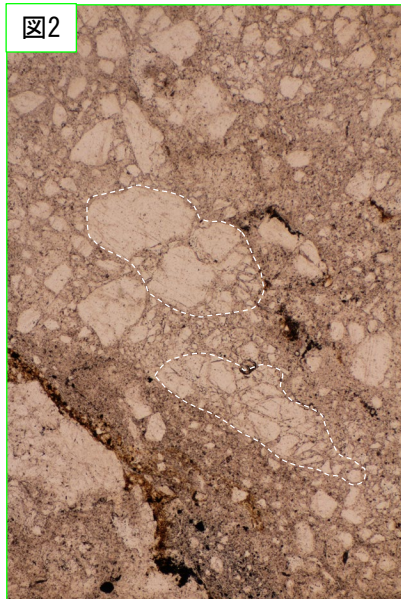


単ニコル

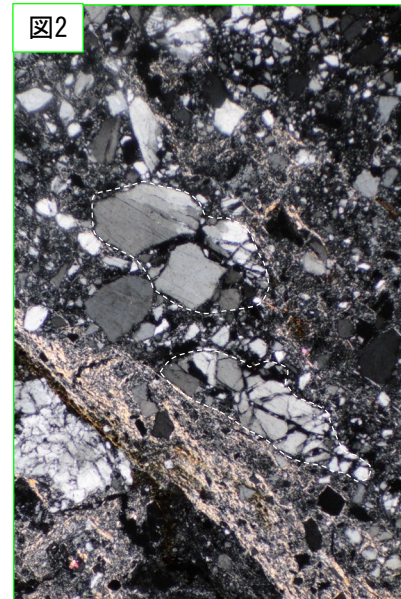


直交ニコル

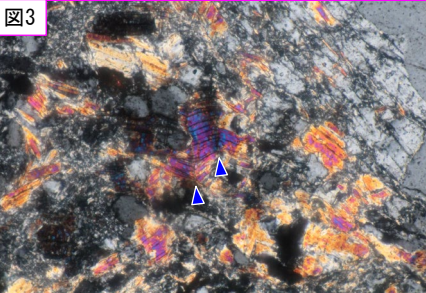
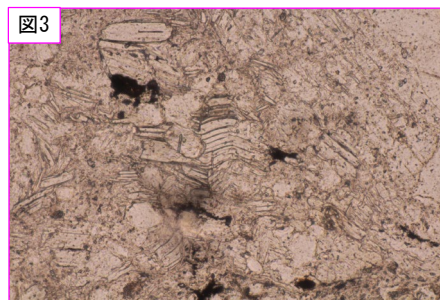
0 1cm



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

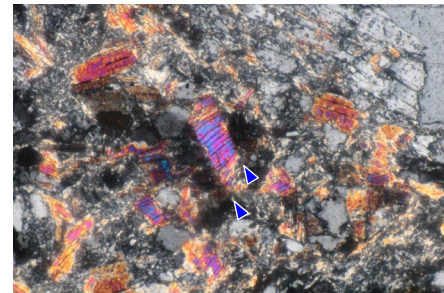
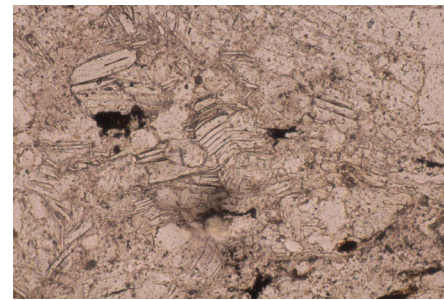


500 μm



青矢印は屈曲箇所を示す。

100 μm



青矢印は屈曲箇所を示す。

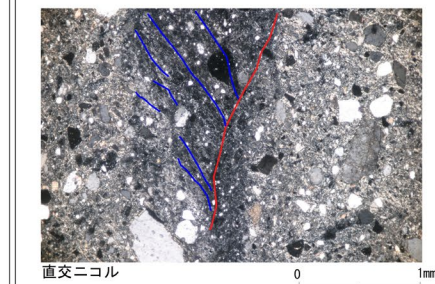
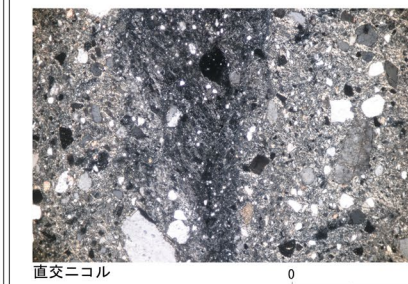
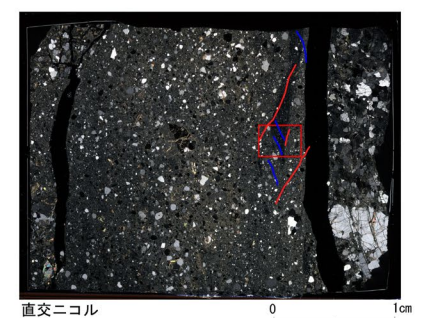
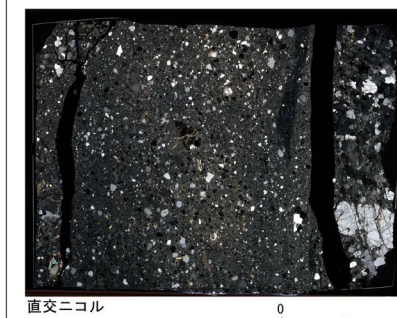
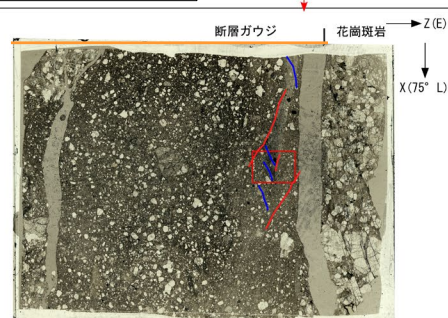
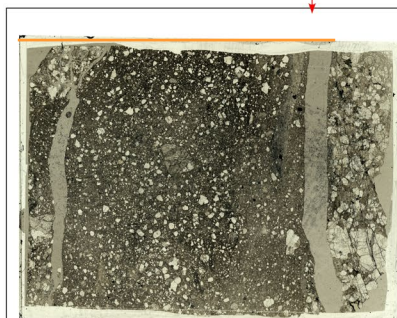
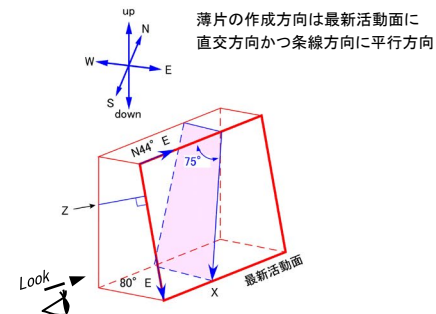
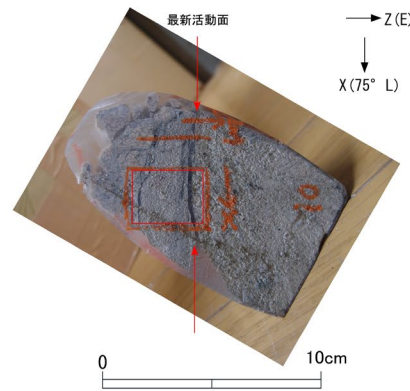
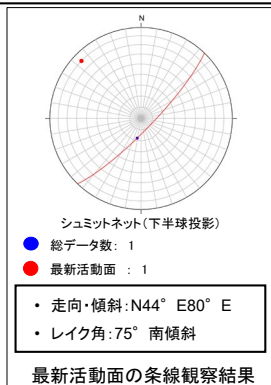
100 μm

ステージを反時計回りに約20度回転

H24-B14-2 深度49.24~49.55m D-44破砕帯

・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度49.26m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

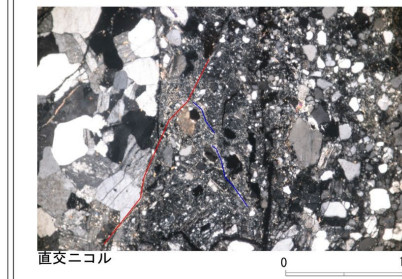
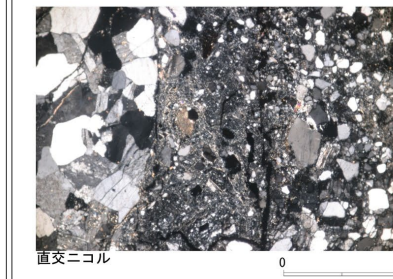
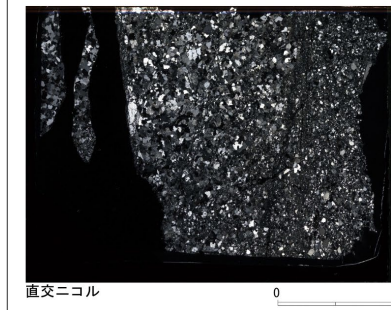
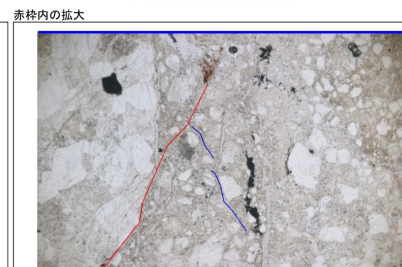
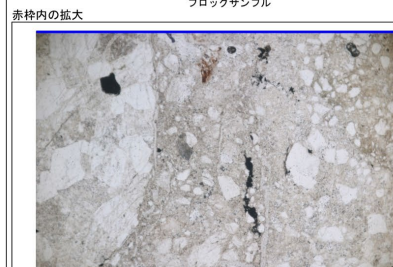
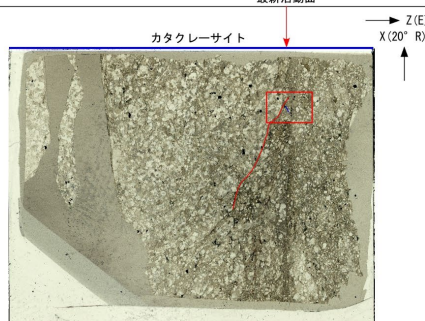
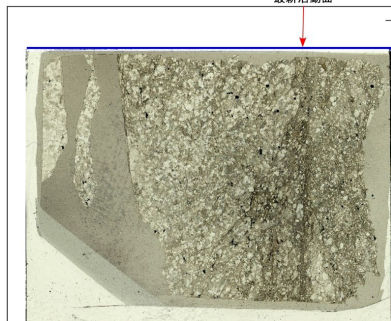
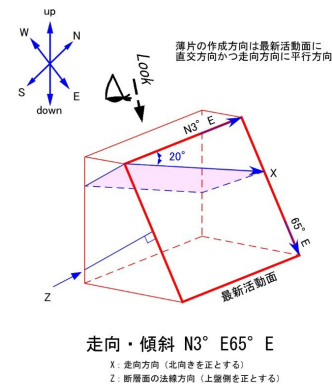
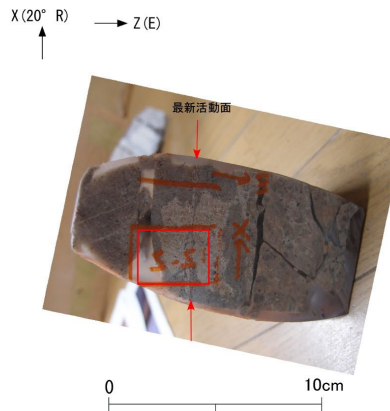
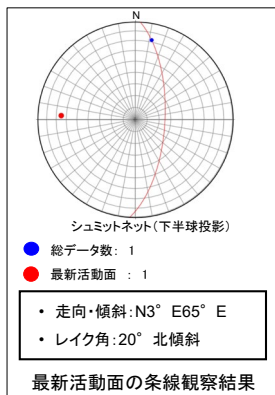
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-B14-2 深度101.47~101.52m f-b14-2-6破砕帯

・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度101.50m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことや、一部に鉱物の粒界を横断する破断面が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献を踏まえても変更なし。)



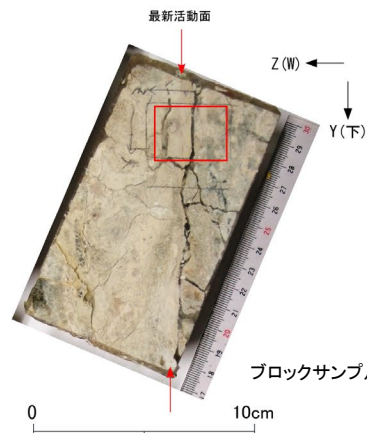
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-B14-2 深度109.16~109.46m D-1破碎帯 (1/2)

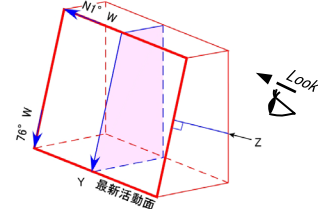
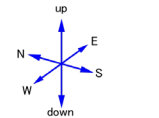
・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度109.16m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

条線データなし



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ傾斜方向に平行方向



ブロックサンプル

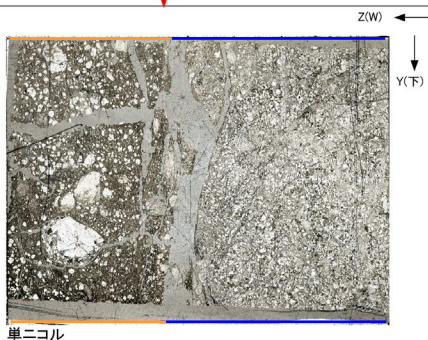
走向・傾斜 N1° W76° W

Y: 傾斜方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



最新活動面

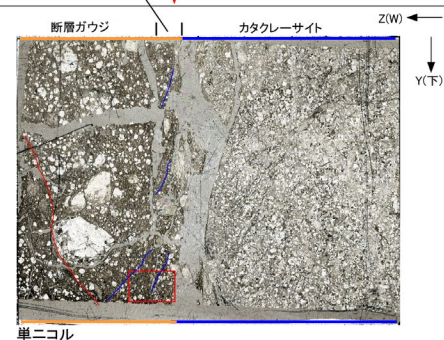


単ニコル

最新活動面

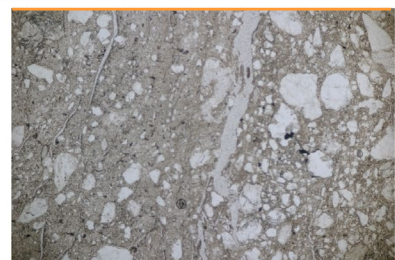
断層ガウジ

カタクレーサイト



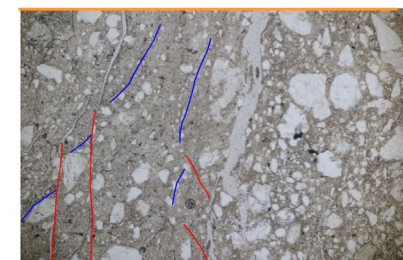
単ニコル

赤枠内の拡大

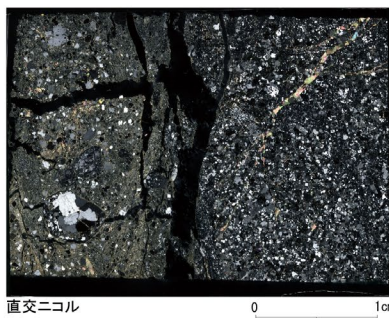


単ニコル

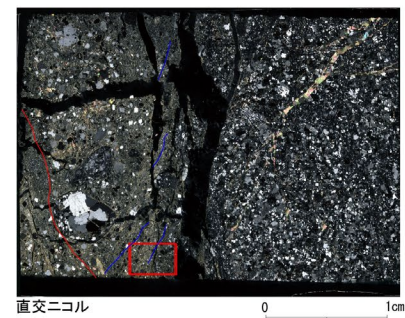
赤枠内の拡大



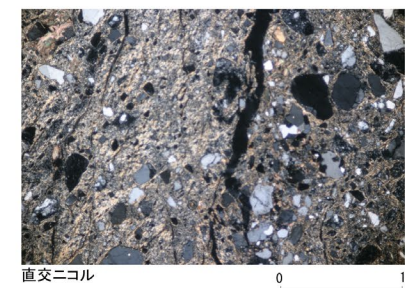
単ニコル



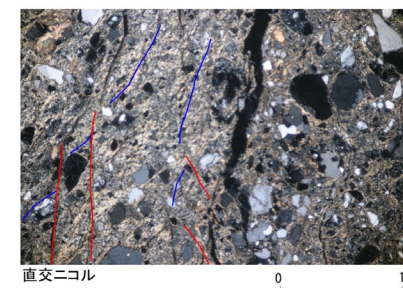
直交ニコル



直交ニコル



直交ニコル



直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

鉛直断面: 最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。

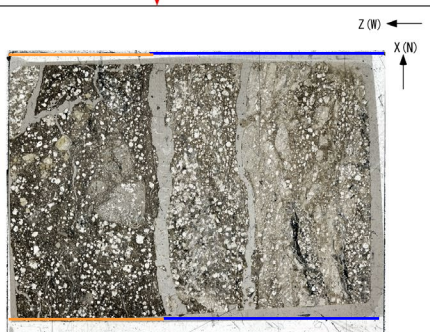
H24-B14-2 深度109.16~109.46m D-1破碎帯 (2/2)

・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度109.16m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

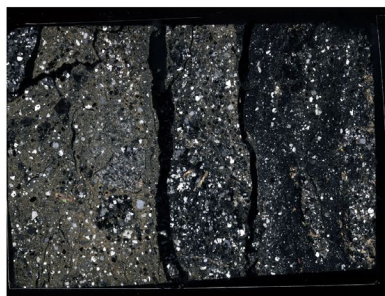
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

条線データなし

最新活動面

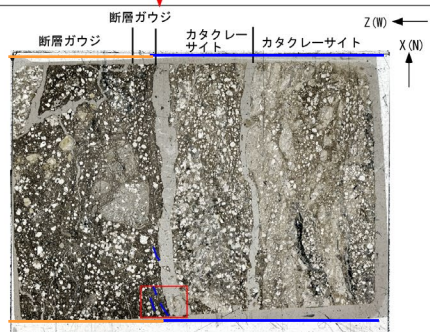


単ニコル

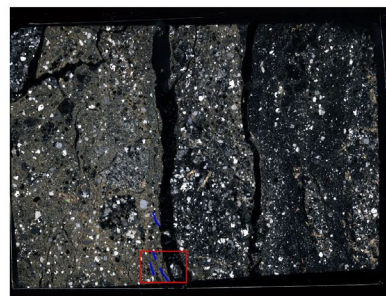


直交ニコル

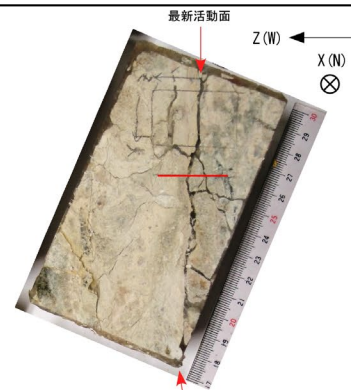
最新活動面



単ニコル

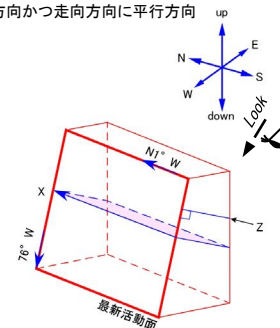


直交ニコル



0 10cm ブロックサンプル

薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ走向方向に平行方向

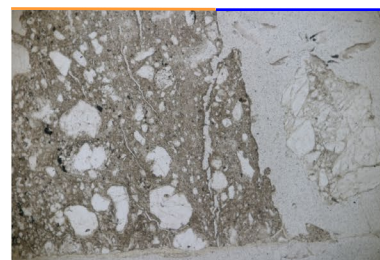


走向・傾斜 N1° W 76° W

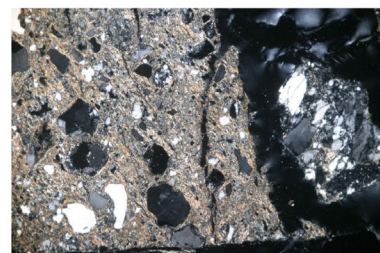
X: 走向方向(北向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

赤枠内の拡大

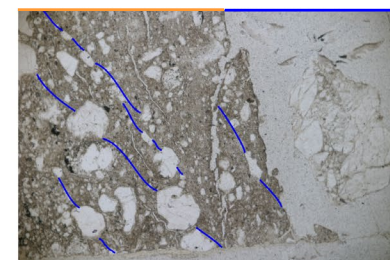


単ニコル

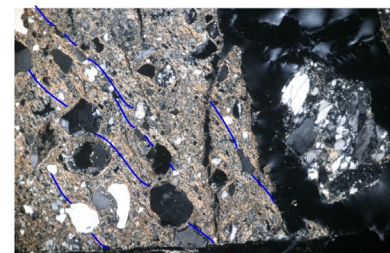


直交ニコル

赤枠内の拡大



単ニコル



直交ニコル

水平断面: 最新活動面の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

余白

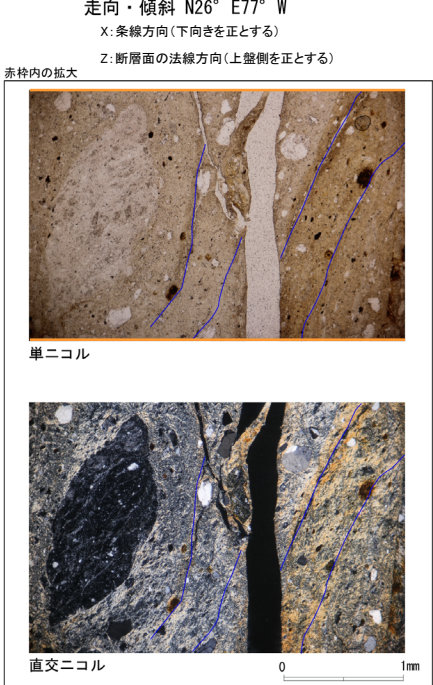
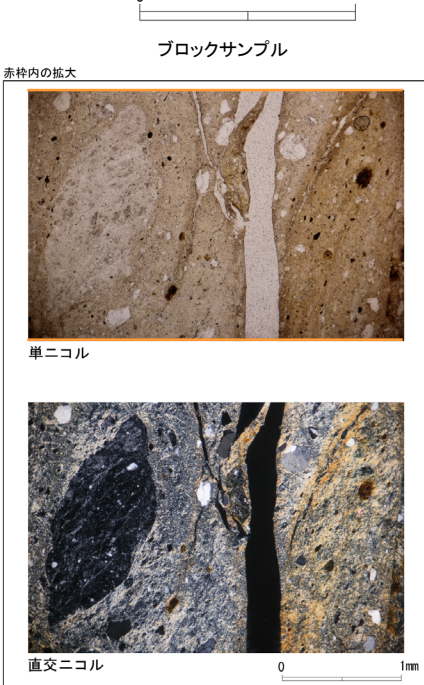
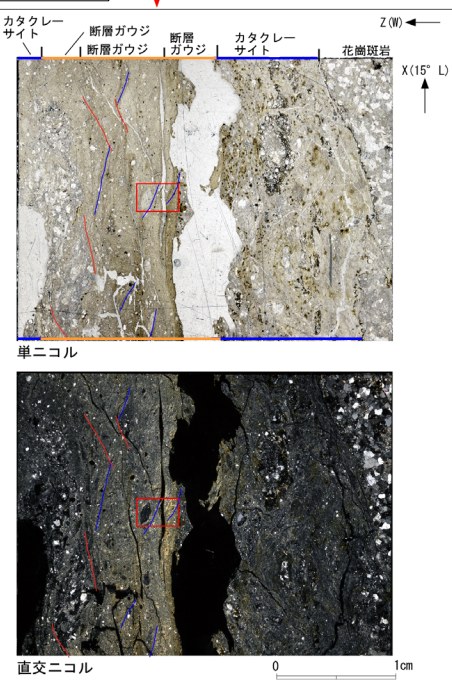
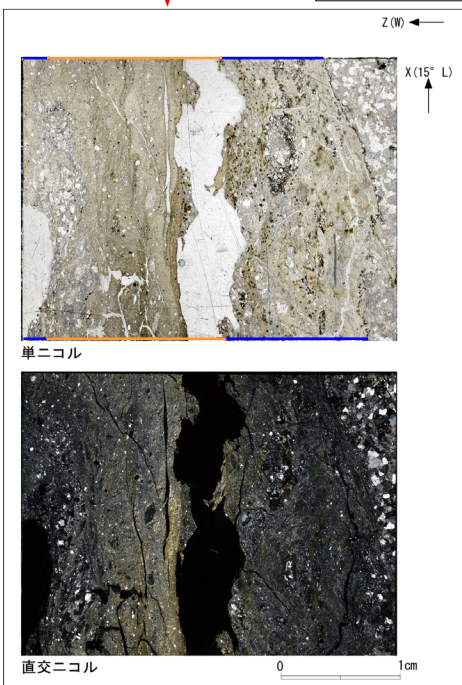
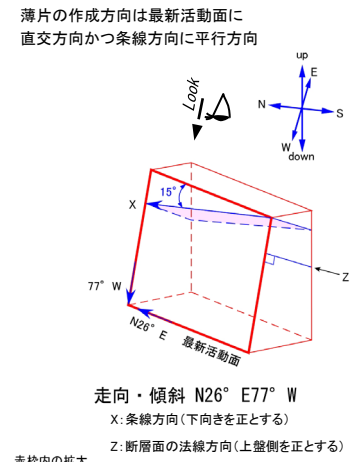
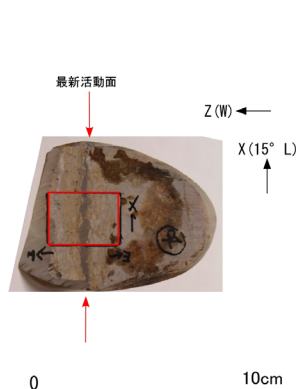
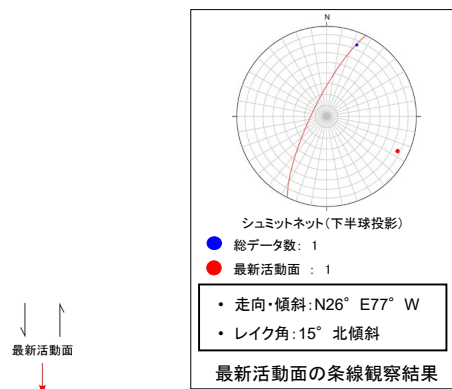
H24-D1-3

余白

H24-D1-3 深度 13.94~14.06m H-3d破砕帯

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度14.06m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面